

荒牧町だより

第176号
荒牧町自治会
広報委員会

【自治会定期総会のお知らせ】

自治会では、平成29年度を迎えるにあたり、定期総会を開催いたします。

記

◇日時 平成29年3月18日(土) 午前9時30分

◇会場 荒牧町公民館

◇協議事項

- 一、平成28年度事業報告及び収支決算報告
- 二、平成28年度会計監査報告
- 三、平成29年度副会長の選出について
- 四、平成29年度事業計画(案)及び予算(案)について
- 五、その他

(※定期総会資料は、各組長より

全世帯に配布いたします)



【平成29年度第1回組長・地区代表会議のお知らせ】

記

◇日時 平成29年3月19日(日) 午前10時

◇会場 荒牧町公民館

◇議題

- 一、平成29年度行事予定・集金予定について
- 二、荒牧町自治会執務時間、時間外連絡、担当地区代表について
- 三、自治会費の集金、募金の集金について
- 四、会計監査員の選出について
- 五、その他

(※平成29年度の自治会役員として大切な会議ですので、是非とも出席をお願いいたします。)

来て下さいね

不動明王祭

新田東地区

1月28日(土) 午前8時、不動明王前で日輪寺住職の読経が流れてきました。火災予防や家内安全とともに、事前準備で作成したお札や供物へ御祈願をしてもらいました。

外では、各種催しと受付、賛同者に配布してもらうお札や供物の分配等、どんどん準備が進みます。いよいよ不動様祭の始まりです。

最初の参拝する方が見えると、次から次へとお不動様に手を合わせ、それぞれの思いをお願いする人でいっぱいになりました。お正月のあいさつやお互いの健康を気遣う声、情報交換などと狭い境内が大賑わいでした。寒風の中取ってきた篠で作った旗もほとんどお渡しすることができました。また、お楽しみの福引、おでんやとろろてん、綿菓子なども皆さんとの交流を深めるもとなったようです。今年はいよいよ小さいお子さん連れの家族や友人と一緒にという方も多く、お不動様が地域のよりどころの一つであるとの思いを新たに感じた一日でした。

多くの参拝者をはじめ、地区の組長さん、祭典の趣旨に賛同してくださった方々のご尽力に対し、祭典委員一同、心より御礼申

今後も、地域の発展と安全を祈願しつつ、お不動様をお守りしてまいりますので、皆様のご支援ご協力を



自治会掲示板・1

○平成28年度「赤い羽根共同募金」及び

「地域歳末たすけあい募金」の報告

昨年11月に、町内の皆様にご協力を頂き実施いたしました募金について、実績報告いたします。募金金額は、前橋市社会福祉協議会に納金いたしました。

- ①赤い羽根共同募金 329,984円
- ②地域歳末たすけあい募金 152,668円

皆様のご協力に感謝申し上げます。

○民生・児童委員のお知らせ

平成28年12月1日付けで、委員の交代がありましたので、ご紹介いたします。(敬称略)

①退任された方々 (担当地区)

- 別所 郁雄 中荒牧
- 濱田 陽一 団地
- 関口 典子 上宿
- 高橋 旬子 下宿

委員として、大変重要なお仕事を務めて頂きました。心から感謝申し上げます。

②新体制の方々

新たに活動して頂く方々を紹介いたします。

- 荒木 光子 (留任) 新田・東
- 藤川トシ子 (留任) 中荒牧
- 須藤 和子 上宿
- 今井 静枝 下宿
- 福島 啓子 中荒牧
- 高橋真佐美 団地

高齢者教室（1月）「歌と踊りのつどい」

1月28日、毎年楽しみにしている「歌と踊りのつどい」が開かれ、長寿会の皆さんが日頃からサークル活動で熱心に練習された成果を舞台披露してくれました。

「荒牧町民謡クラブ」・「荒牧カラオケ愛好会」・「チェリーポルカ荒牧」・「寿カラオケ愛好会」と「荒牧町八木節保存会」の皆さんによるすばらしい歌や踊りが披露されると、大きな拍手が送られていました。



自治会掲示板・2

○3月の「広報まえばし」の配布日の変更

3月1日（水） ⇒ 3月2日（木）に変更

○自治会等行事予定（いずれも荒牧町公民館にて）

・2月18日（土） 午前11時～

平成28年度組長等役員慰労会

・2月22日（月） 午前10時～

いきいきサロン（手作りお菓子）

・3月11日（土） 午前10時～

長寿会主催

健康講座「ラフター・ヨガ」・閉講式

まちかど探検・43

荒牧神社 祭典の変遷

江戸時代はさて置き、明治維新の頃、明治八年六月五日太政官通達により編集され、内務省地理局へ提出された「勢多郡誌」の記録に「上野国勢多郡荒牧村」「・・・民業：男農桑ヲ業トスル者七十九戸、酒醸ヲ業トスル者壱戸、女養蚕製糸裁縫ヲ業トスル者百三十人」という数が読める。

この当時の荒牧村はその殆どの家が農業や養蚕製糸を営んでいたと思われ、村全体の戸数は一概には言えないがそれほど多くはなかったであろう。

そして同上の郡村誌に「村社諏訪神社 本村ヨリ北ノ方字宿後ニアリ祭日八月二十七日社中杉木アリ」という記述もある。僅かの戸数の本村にも立派な村社が存在していたことが、荒牧神社の由緒書からも推察できる。



《移転前の神社》

次にこの当時の世情から村民が集う場面としては矢張り「冠婚葬祭」であったに違いないが、より多くの村民が集まる時は神社の祭典であったと思われる。

ここで一つの資料として戦前の荒牧神社の祭典について「荒牧町30年誌」の中に福田三郎氏が次のような思い出の記を残している。その要旨は「昭和5～6年のことと思いま

すが、神社の秋祭りを告げる大きな幟が建てられると、子供達の動きが活発になる。神社への奉納子供角力が開催され、当時珍しかった三輪車等の商品が貰えたので連日特訓もやっていた。

宵祭りは通りに面した家々の提灯がしめ縄で飾られ、当日は露天商が道路の両側に軒を連ねた。夜は青年・壮年の八木節踊りで、終日賑やかであった。」とあり今では考えられない程の賑わいであったことが、偲ばれる。

特に桃川小学校の子供達は、祭典の日は時には学校が休みになったこともあり、休みでないときは学校から一目散に神社に集まったとの事である。

下宿の養田和夫氏の話によると、祭日の時が正月の参拝の折りに御「この鎮宮（しずみや）に鎮まり天皇（すめらみこと）の御斎時（みさいじ）を常盤（ときわ）に生きて示すなり」と子供達が一斉に唱った覚えがあ

又、塩原宮司さんの話しによっても、確かに戦前は子供達にお菓子や鉛筆を配ったとの事があり、戦争中は

矢張り「神頼み」 《社殿の中に奉納された額》あるいは「神信仰」の上からも、国家的に神を大切にするという風潮があり、特に正月・紀元節などは神社に村民が集まったと語っている。

しかし宮司さんの話では幟を立てる支柱は現在の鳥居の脇にあるが、大戦後は時代の流れに逆らえず祭りを中心とした行事も姿を消し、特に神社の移転後は殆どの祭事がみられなくなり、現在残っている「除夜の鐘」や「お焚上げ」に往時の姿がいまだに根強い信仰を物語っている。

